
**2012年3月期
第3四半期決算 及び 通期業績見通し
説明資料**

帝人株式会社

2012年2月3日

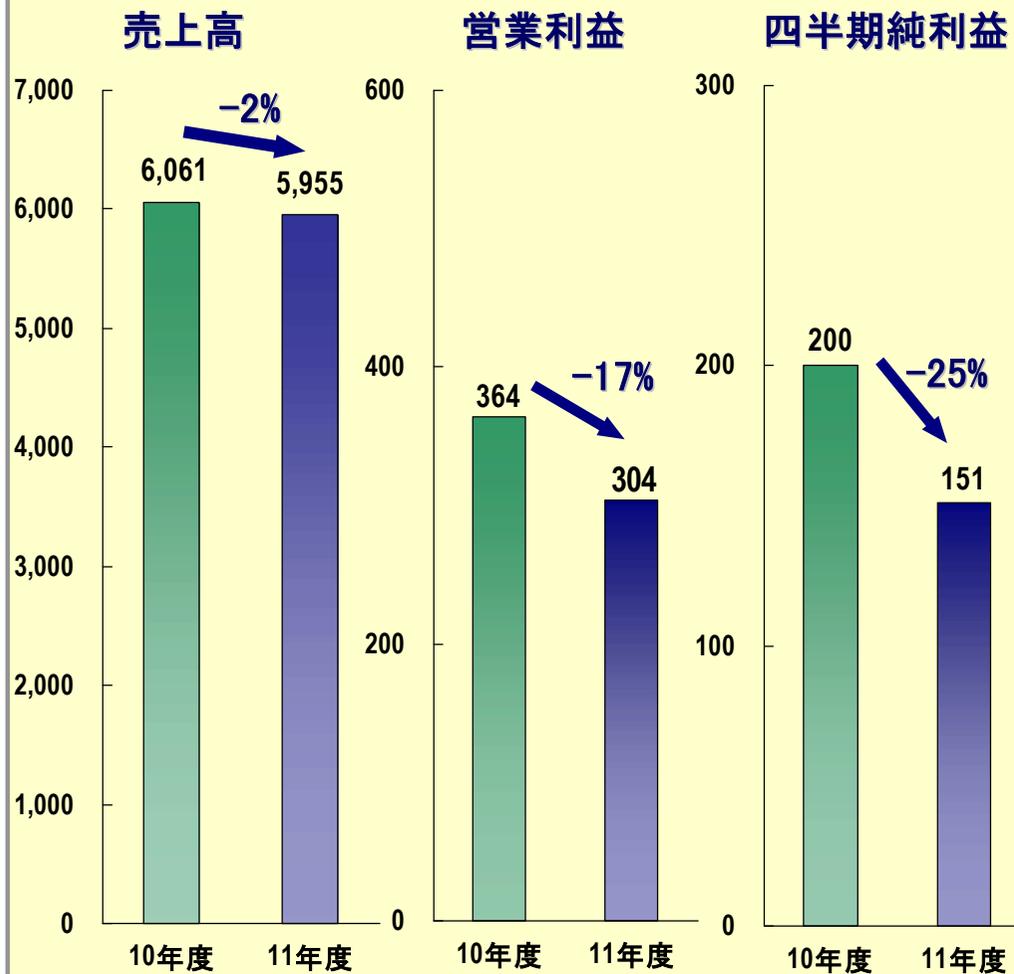
第3四半期決算概況

(1) 2012年3月期 第3四半期決算概況

(億円)

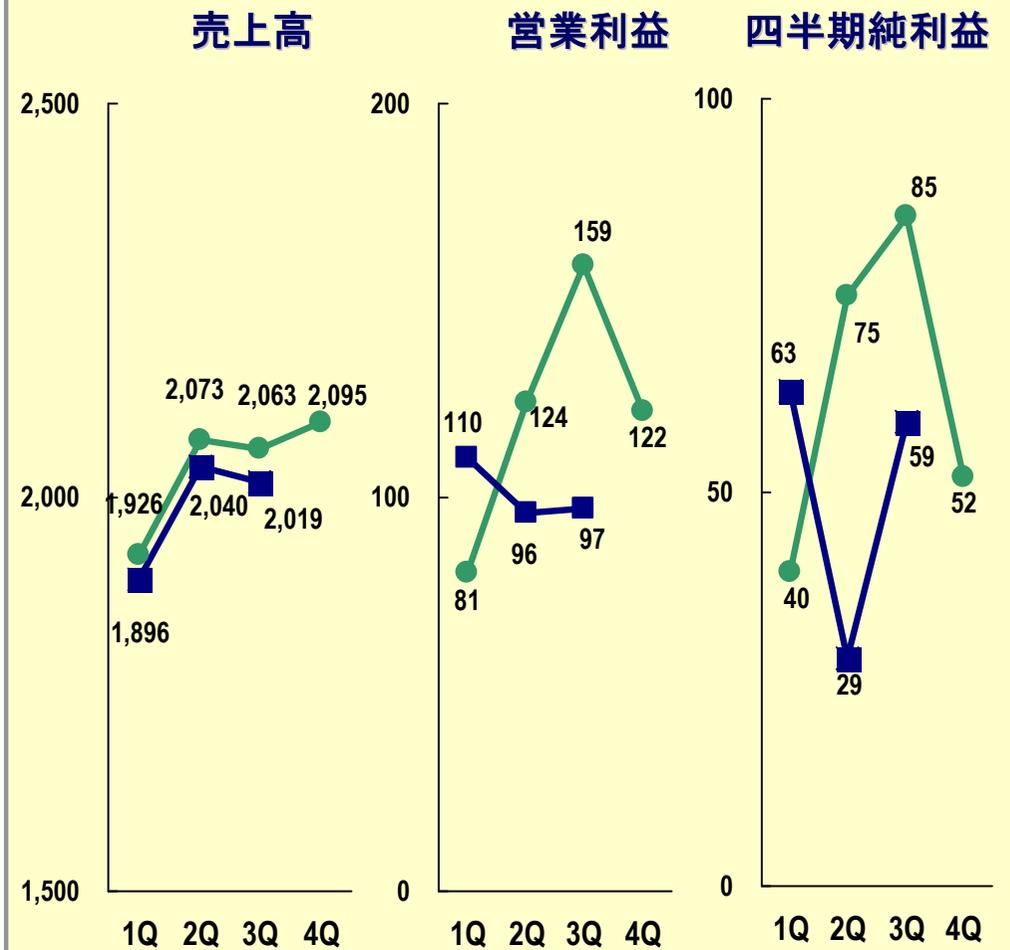
年度累計

(前年同期比)



四半期推移

● 10年度 ■ 11年度



◆ 経営成績

(億円)	10年度 3Q累計	11年度 3Q累計	差異 金額
売上高	6,061	5,955	-107
営業利益	364	304	-60
<営業利益率>	6.0%	5.1%	-
営業外損益	10	12	+2
経常利益	374	316	-59
特別損益	-18	-37	-19
税金等調整前 四半期純利益	356	278	-78
法人税等	134	116	-18
少数株主損益	22	12	-11
四半期純利益	200	151	-49
EPS(円)	20.33	15.34	-4.99
EBITDA *1	785	652	-133
設備投資 *2	198	199	+1
減価償却費	421	349	-73
研究開発費	231	226	-6
FCF	159	-155	-313

▶ 売上高・営業利益：減収・減益

- ・化成品事業が前半の震災影響に加えて、エレクトロニクス関連市況の急速な悪化により大幅減益
- ・その他の事業は高機能繊維を中心に堅調に推移して増収・増益

▶ 純利益：減益

- ・投資有価証券の評価損計上により特別損失増加

◇ PL換算レート

	10年 3Q累計	11年 3Q累計
円 / 米ドル	90	81
円 / ユーロ	118	113
米ドル / ユーロ	1.32	1.41

*海外会社は12月決算

◆財政状態

(億円)	11年3月末	11年12月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	7,615	7,758	+142	-104
自己資本	2,842	2,861	+19	-44
有利子負債	2,674	2,850	+176	-43
D/Eレシオ	0.94	1.00	+0.06	
自己資本比率	37.3%	36.9%	-0.4%	

- ▶ 総資産増加：
- ・在庫の増加
- ▶ 自己資本増加：
- ・四半期純利益
 - ・為替換算調整額の控除増加(円高)
 - ・有価証券評価差額金の減少(株安)
- ▶ 有利子負債増加：
- ・在庫増による運転資金の増加

◆キャッシュ・フローの状況

(億円)	営業活動	投資活動	FCF	財務活動 他	現金及び 現金同等物 増減
11年度 3Q累計	99	-254	-155	162	7
10年度 3Q累計	367	-208	159	-209	-51

* キャッシュフローについては金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外

◇BS換算レート

	10年 12月末	11年 9月末
円 / 米ドル	81	77
円/ユーロ	108	104
米ドル/ユーロ	1.32	1.36

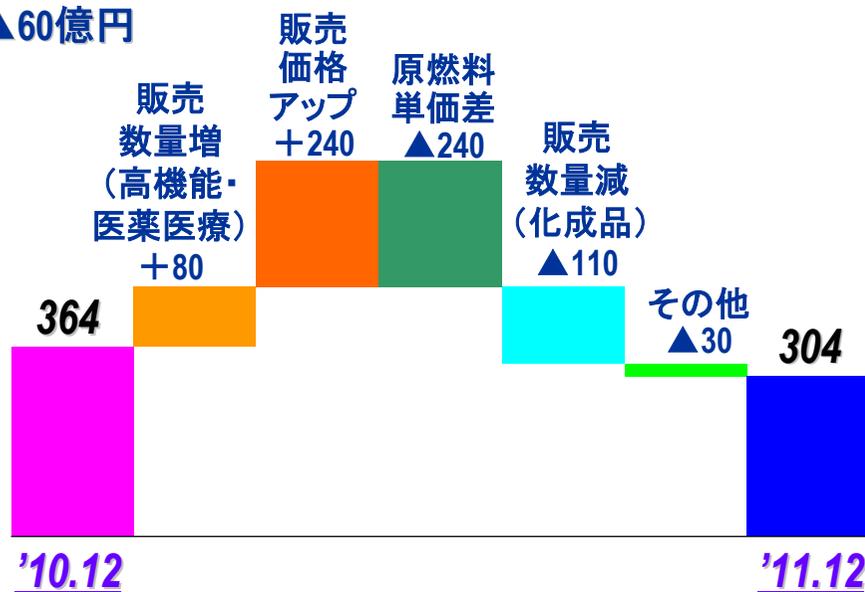
*海外会社は12月決算

◆ 経営成績及び財政状態増減内訳

◇ 営業利益

(億円)

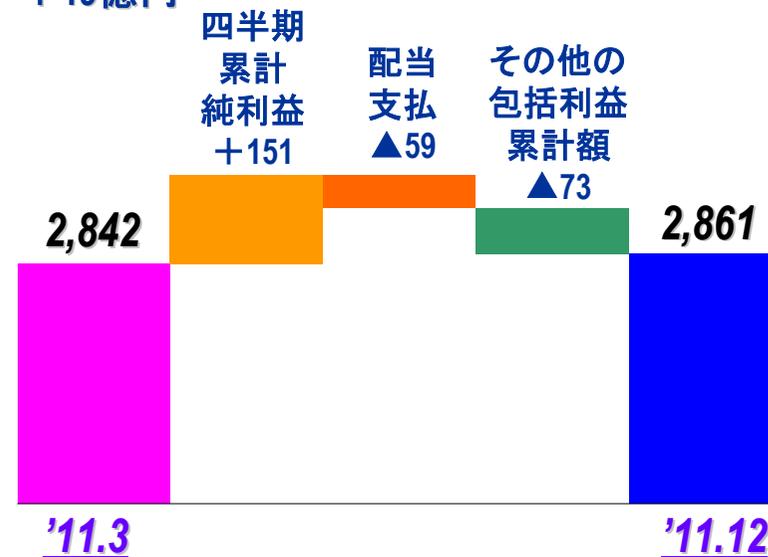
▲60億円



◇ 自己資本

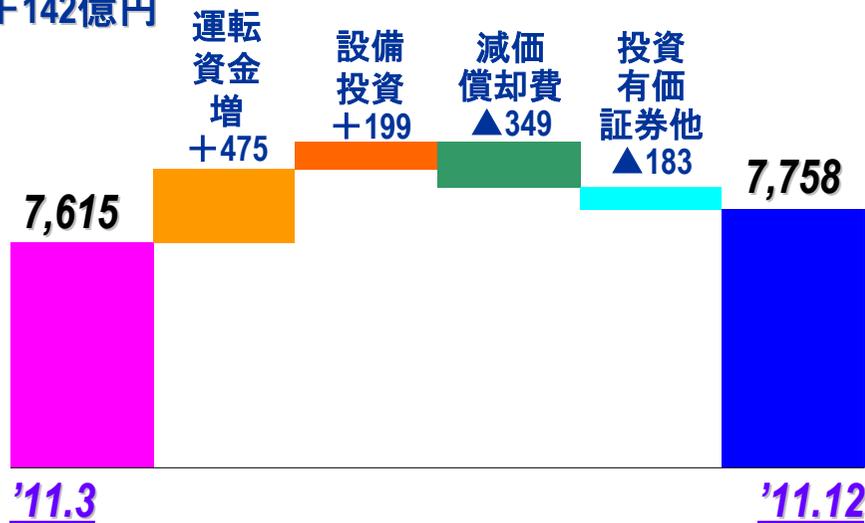
(億円)

+19億円



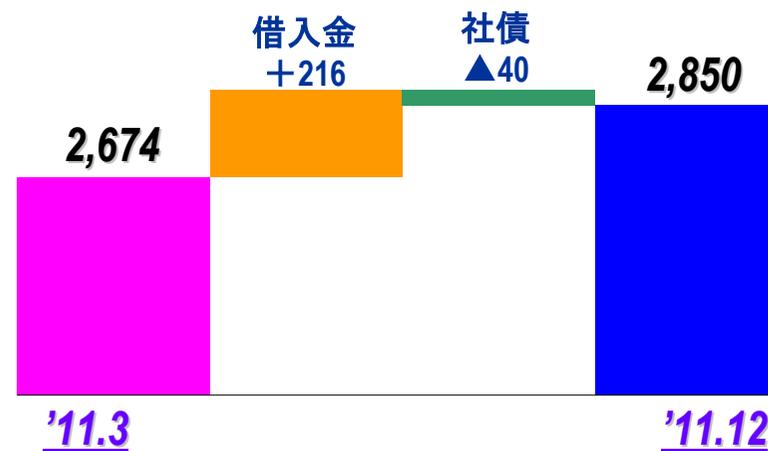
◇ 総資産

+142億円



◇ 有利子負債

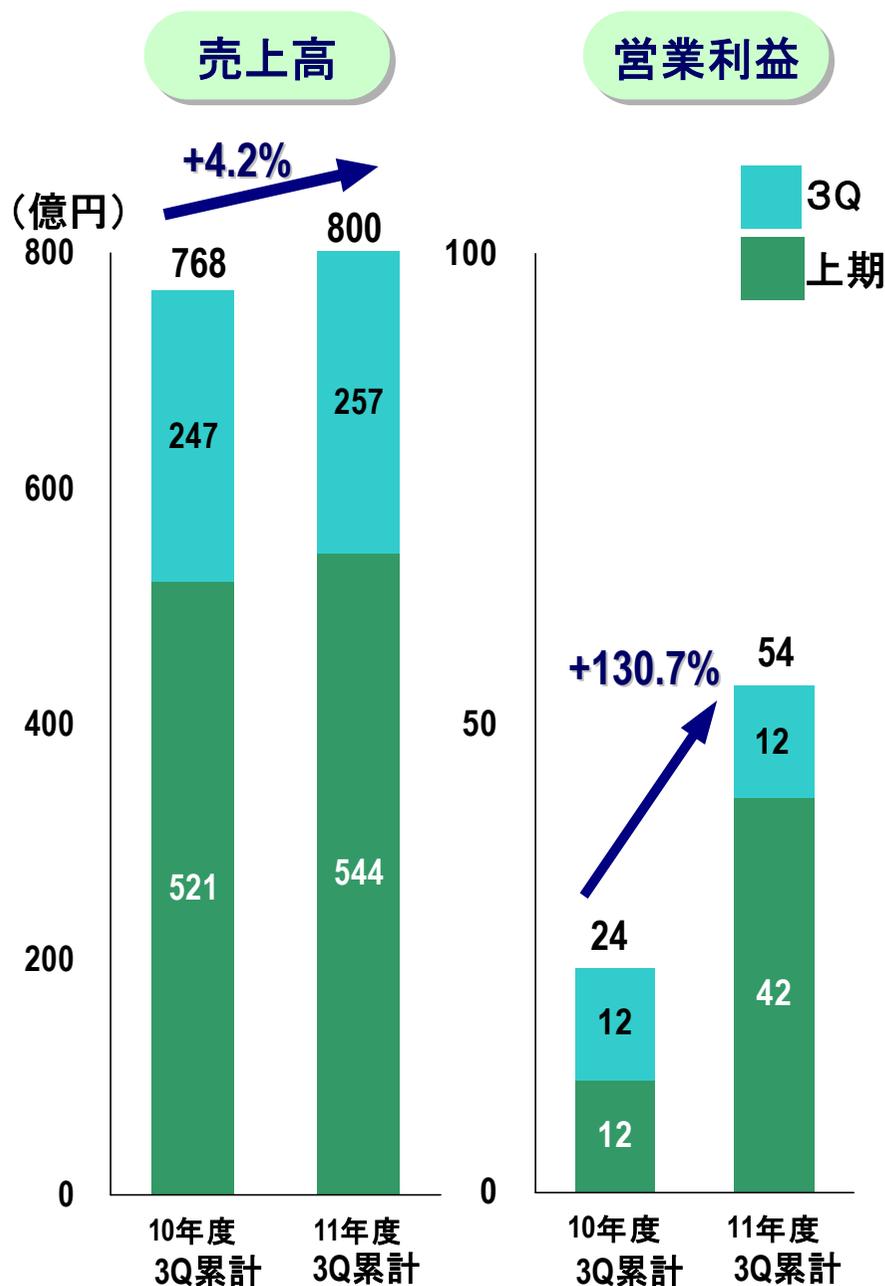
+176億円



(2)セグメント別 売上高・営業利益比較(対 前年同期)

(億円)	売上高				営業利益			
	10年度 3Q累計	11年度 3Q累計	差異	増減率	10年度 3Q累計	11年度 3Q累計	差異	増減率
高機能繊維	768	800	+32	+4.2%	24	54	+31	+130.7%
ポリエステル繊維	758	805	+48	+6.3%	14	20	+6	+44.8%
化成品	1,656	1,393	-264	-15.9%	191	75	-116	-60.8%
医薬医療	1,022	1,041	+19	1.8%	186	195	+8	+4.4%
流通・リテイル	1,603	1,638	+36	2.2%	35	43	+8	+22.7%
計	5,807	5,678	-129	-2.2%	450	387	-63	-13.9%
その他	254	277	+23	+8.9%	11	15	+3	+29.0%
消去又は全社	-	-	-	-	-97	-98	-1	+0.9%
合計	6,061	5,955	-107	-1.8%	364	304	-60	-16.6%

① 高機能繊維事業：増収、大幅増益



(億円)	10年度 3Q累計	11年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	768	800	+32	+4.2%
営業利益	24	54	+31	+130.7%

◆ 事業概況・実施アクション

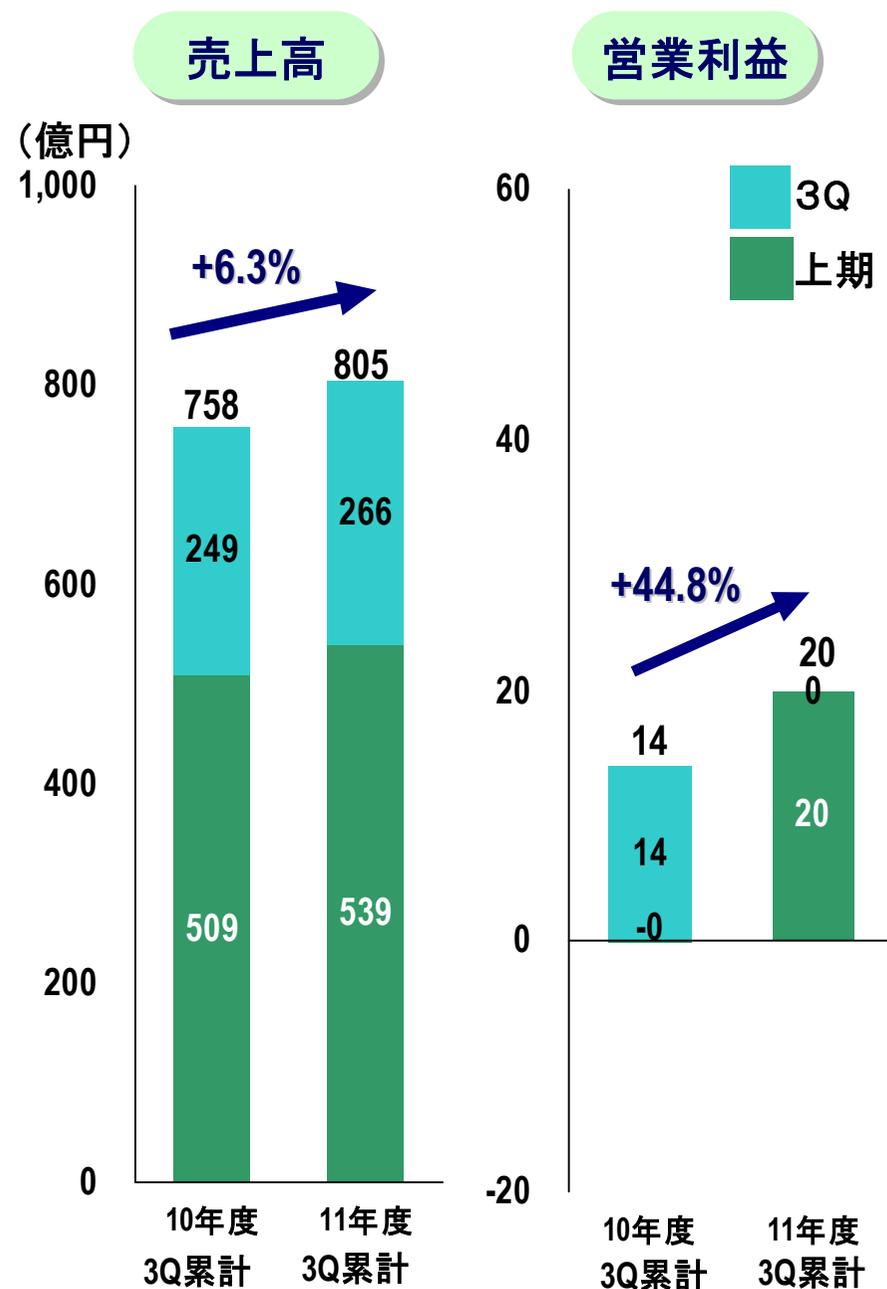
◇ アラミド繊維：

- パラアラミド繊維：各分野において需要堅調
- メタアラミド繊維：防護衣料は堅調、産業用途の一部は調整局面に
- 為替換算影響拡大：円高／ユーロ安

◇ 炭素繊維・複合材料：

- 航空機用途は好調継続
- 一般産業用途は欧州・アジア市場の需要低迷
- スポーツ・レジャー用途は需要低迷に在庫調整も加わり軟調に推移
- 米GM社と量産車を対象とした熱可塑性CFRPの共同開発契約を締結

② ポリエステル繊維事業：増収、増益



(億円)	10年度 3Q累計	11年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	758	805	+48	+6.3%
営業利益	14	20	+6	+44.8%

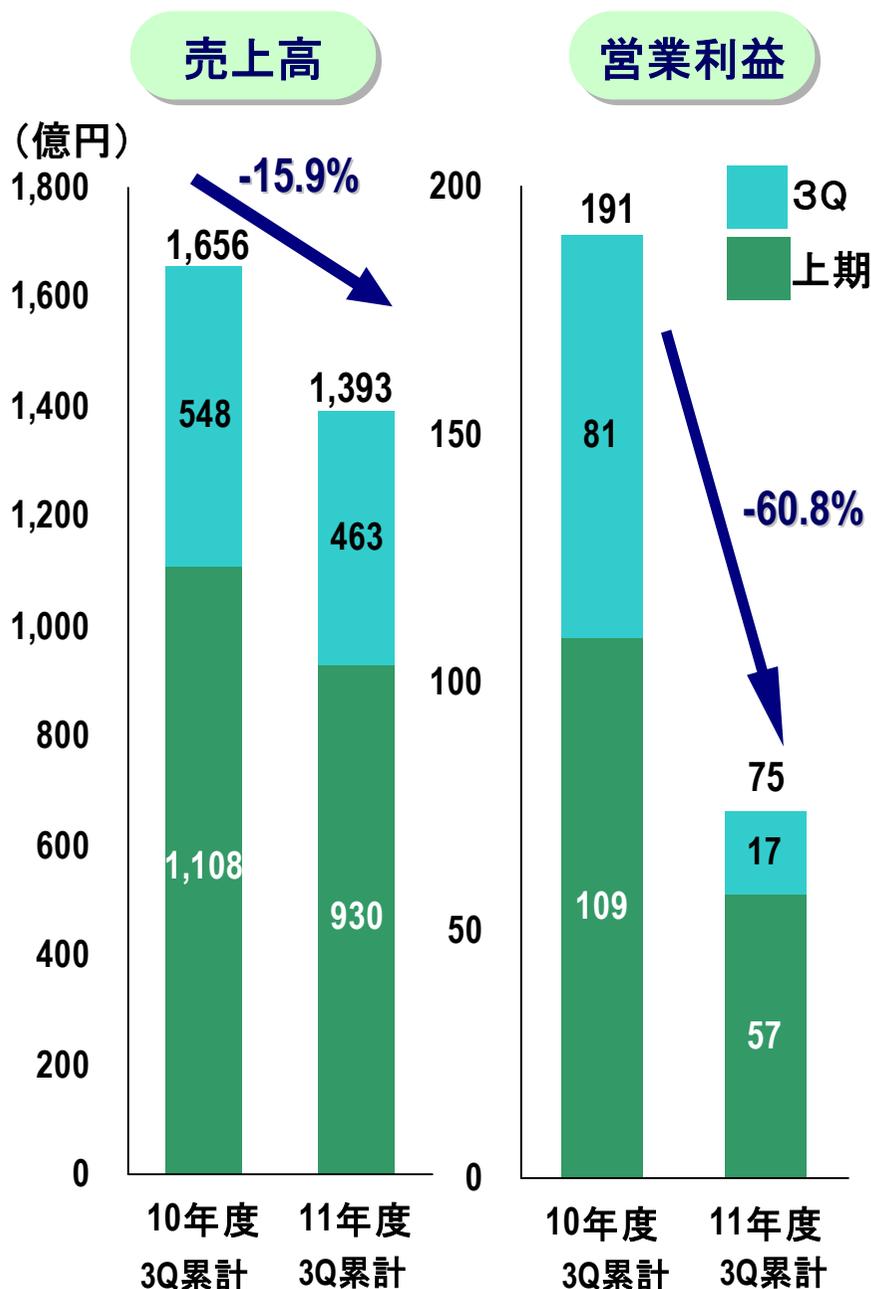
◆ 事業概況・実施アクション

◇ ポリエステル繊維：

- 年前半は構造改革の効果が発現し、好調に推移
- 震災により低迷した自動車向け需要も回復、更にクールビズ/節電需要/復興需要を取り込み
- タイ洪水被害により連結子会社3社*が操業停止
 - ・早期復旧に向けての取り組み推進中
 - ・代替生産によるコストアップにより収益下振れ

* テイジン・ポリエステル(タイランド)社
 テイジン(タイランド)社
 テイジン・コード(タイランド)社

③ 化成品事業：減収、大幅減益



(億円)	10年度 3Q累計	11年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	1,656	1,393	-264	-15.9%
営業利益	191	75	-116	-60.8%

◆事業概況・実施アクション

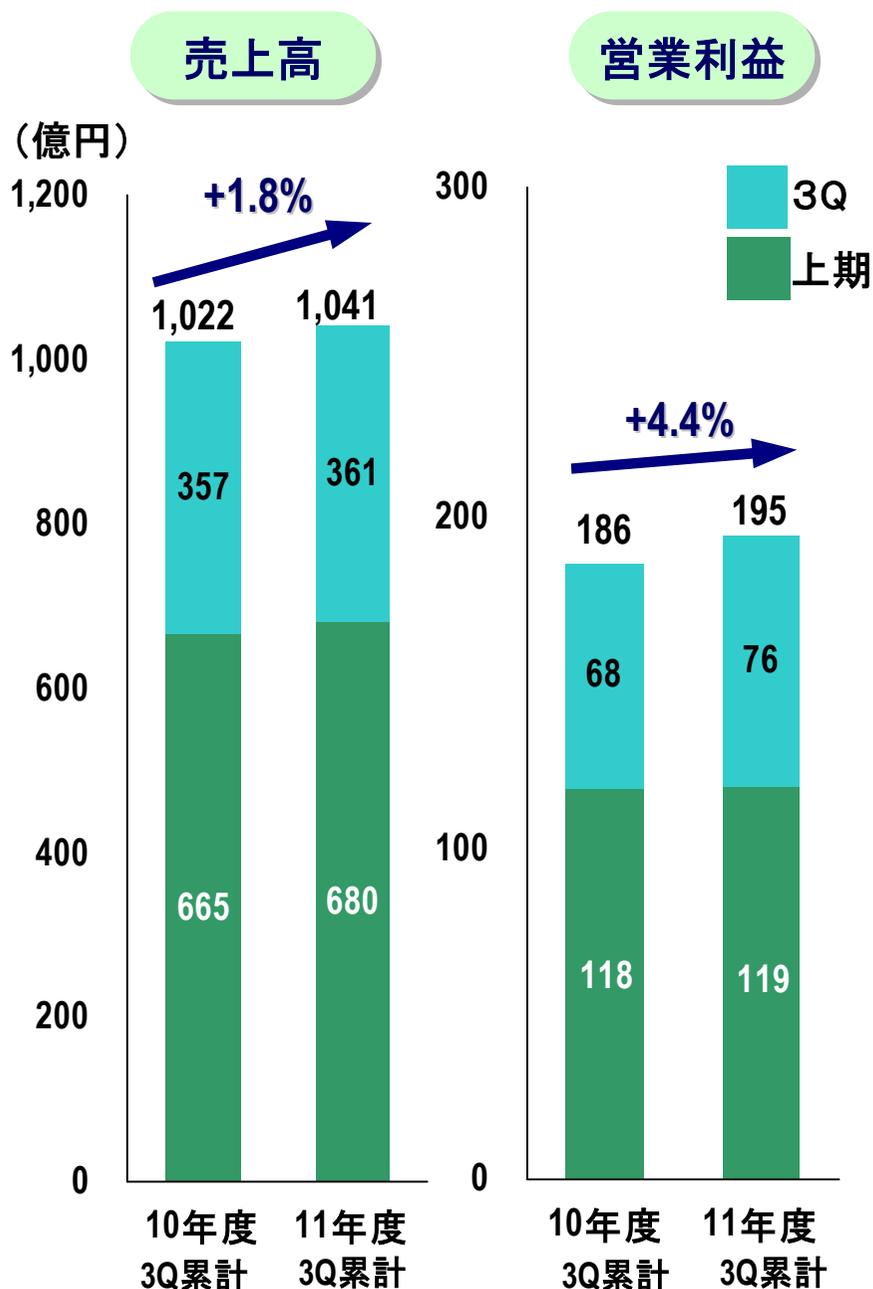
◇樹脂：

- PC樹脂：
 - ・震災影響及び液晶テレビ・パソコン等の市場冷え込みにより販売量減・採算悪化
- 樹脂加工品：
 - ・PCシートの車両向け需要は7月以降復調
 - ・携帯電話向けやタッチパネル向けPCフィルムの市場開拓進行中

◇フィルム：

- FPD反射板用途：
 - ・パネルメーカー減産に伴い需要が急速に減退、販売は低調に推移
- 太陽電池用途：
 - ・欧州各国の財政悪化による助成金減額影響等により需要が急減

④ 医薬医療事業：増収、増益



(億円)	10年度 3Q累計	11年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	1,022	1,041	+19	+1.8%
営業利益	186	195	+8	+4.4%

◆ 事業概況・実施アクション

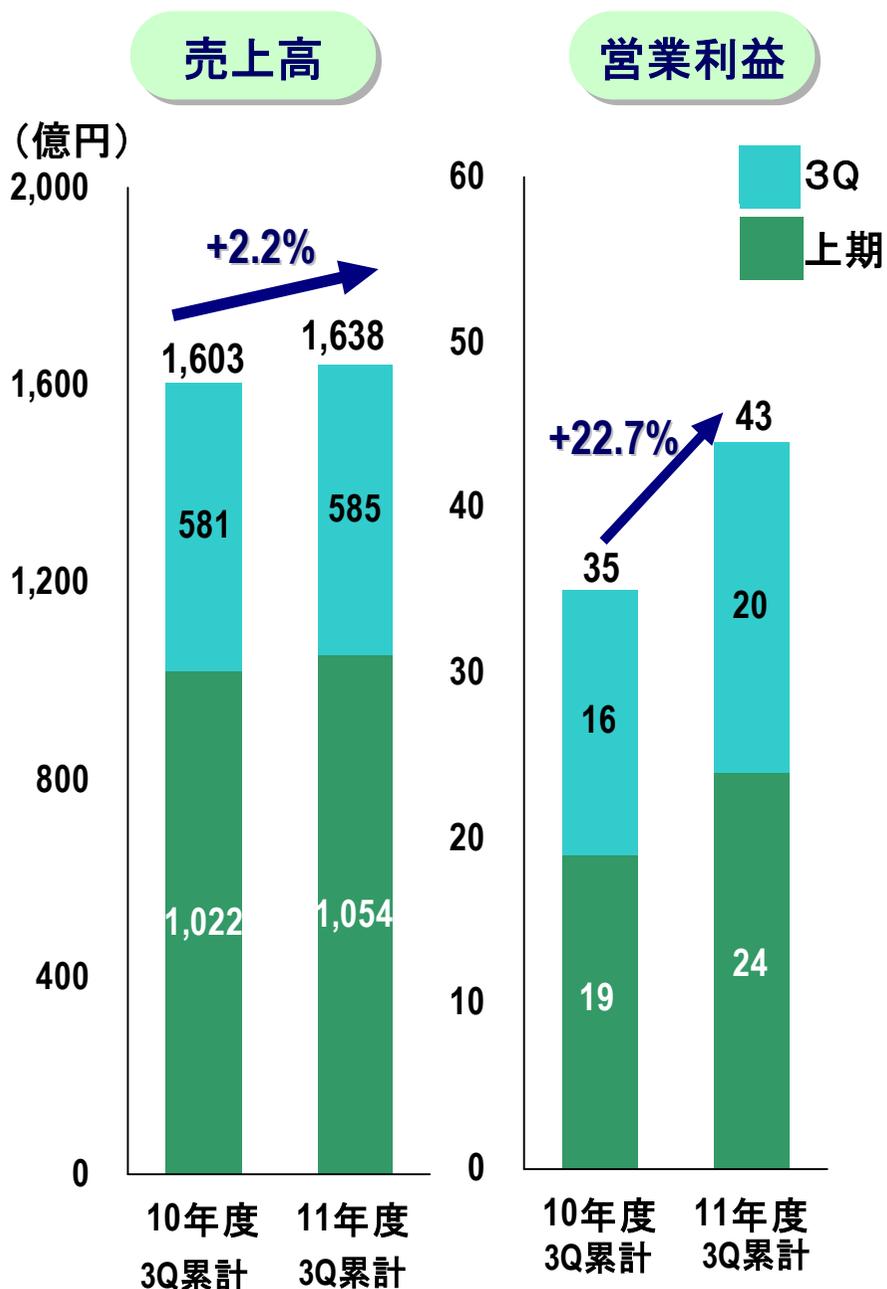
◇ 医薬品:

- 国内では新薬の販売拡大を推進
 - ・高尿酸血症治療剤「フェブリク錠」
 - ・変形性膝関節症の疼痛緩和剤「サイビスクディスポ関節注2mL」
- 海外では高尿酸血症治療剤が順調に拡大
 - ・韓国販売開始(7月)
 - ・メキシコ・中東・北アフリカ・インド・東南アジア等でも販売独占契約を順次締結

◇ 在宅医療:

- HOT: 高水準のレンタル台数維持
- CPAP: 順調にレンタル台数伸長
- 海外: レンタル拡大・運営体制強化を推進中

⑤ 流通・リテイル事業：増収・増益



(億円)	10年度 3Q累計	11年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	1,603	1,638	+36	+2.2%
営業利益	35	43	+8	+22.7%

◆ 事業概況・実施アクション

◇ 流通・リテイル:

- 衣料繊維
 - ・主力のOEM事業で、スポーツ衣料、生活衣料等の販売好調
 - ・生産効率化・集約化により利益率改善

- 産業資材
 - ・自動車関連：
 - 夏場以降、震災影響からの回復持続
 - ・一般資材関連：
 - 不織布、土木・水産用途等、堅調に推移

◆セグメント別 四半期売上高・営業利益推移

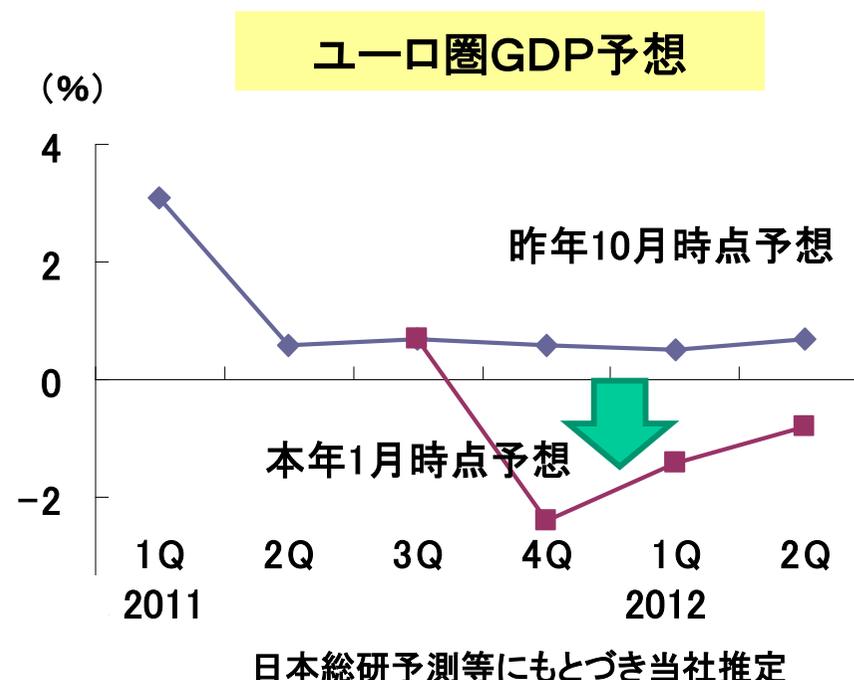
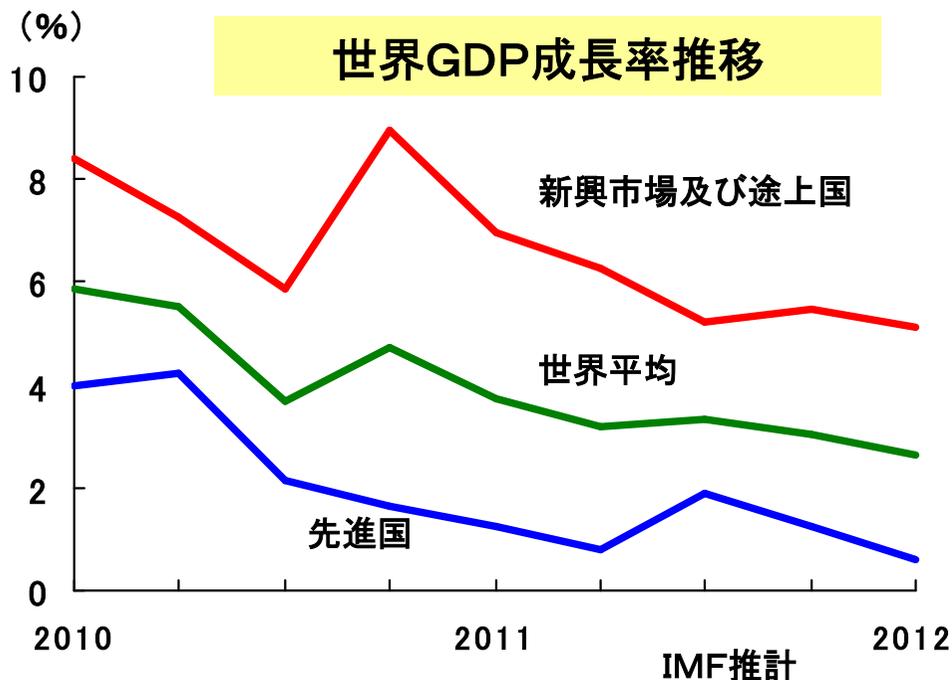
(億円)		10年度実績				11年度実績		
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	高機能繊維	256	265	247	266	269	275	257
	ポリエステル繊維	247	262	249	277	238	302	266
	化成品	518	591	548	515	469	461	463
	医薬医療	337	328	357	342	349	331	361
	流通・リテイル	487	535	581	567	482	572	585
	計	1,845	1,980	1,982	1,966	1,806	1,941	1,931
	その他	81	93	80	129	90	99	88
合計	1,926	2,073	2,063	2,095	1,896	2,040	2,019	
営業利益	高機能繊維	0	11	12	21	20	22	12
	ポリエステル繊維	0	-0	14	16	5	15	0
	化成品	36	73	81	44	32	26	17
	医薬医療	69	49	68	43	72	47	76
	流通・リテイル	7	12	16	12	10	13	20
	計	113	146	192	136	139	123	125
	その他	-1	10	2	20	3	8	4
	消去又は全社	-31	-31	-35	-34	-32	-35	-31
合計	81	124	159	122	110	96	97	

通期業績見通し

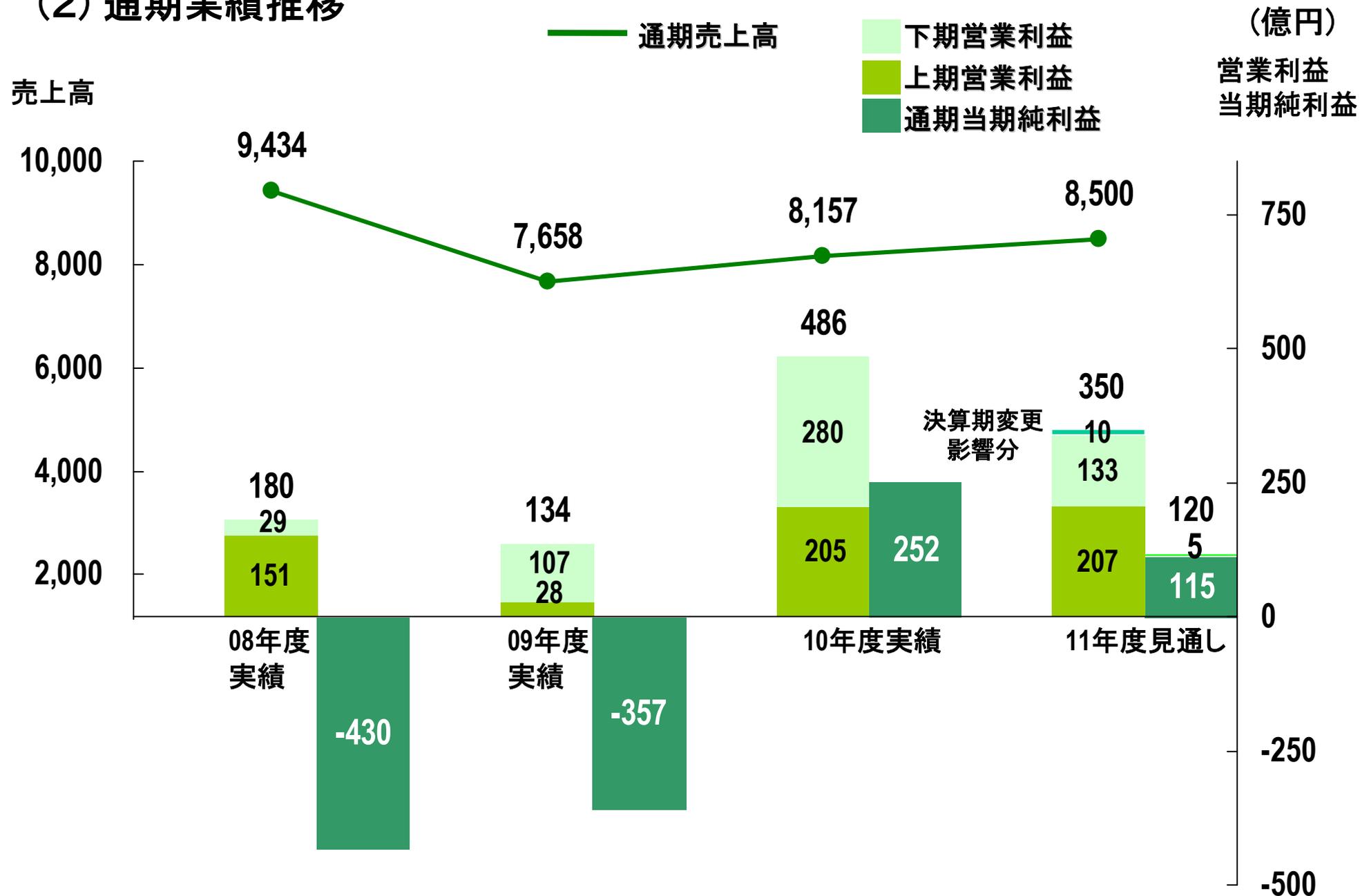
(1) 環境認識

- 欧州債務問題に端を発する市況低迷はさらに長期化
⇒ 欧州域内の実体経済悪化が顕在化
- 中国ほか新興国も、世界的な需要減退の影響を受け輸出低迷、成長鈍化
- 日本は震災によるダメージから着実な復興を果たしつつあるが、円高等のいわゆる「六重苦」により先行き不透明

- 欧州の経済減速は、公共プロジェクト延期など直接影響に加え、余剰製品の流入によるアジアでの競争激化も助長
- エレクトロニクスメーカーなどの減産基調は強まり、足元では需要低迷



(2) 通期業績推移



(3) 通期業績見直しの概況

*前回見直しは2011年11月1日に公表

(億円)	10年度	11年度 今回見直し	差異	
			金額	%
売上高	8,157	8,500	+343	+4.2%
営業利益	486	350	-136	-27.9%
<営業利益率>	6.0%	4.1%	-	-1.9%
経常利益	503	350	-153	-30.5%
当期純利益	252	120	-132	-52.3%

11年度 前回見直し*	前回見直し との差異 (金額)
8,900	-400
500	-150
5.6%	-
500	-150
240	-120

設備投資	292	350	+58	+19.7%
減価償却費	564	550	-14	-2.5%
研究開発費	315	330	+15	+4.8%

450	-100
550	-
330	-

■ 中間配当及び期末配当予想

*前回見直しより変更なし

中間配当	3.0円/株
期末配当	3.0円/株の見直し
年間配当	6.0円/株の見直し

■ 2011年度見直し前提

	前回見直し*	今回見直し
米ドル	79円	79円
ユーロ	111円	109円
原油(Dubai)	109米ドル/バレル	108米ドル/バレル

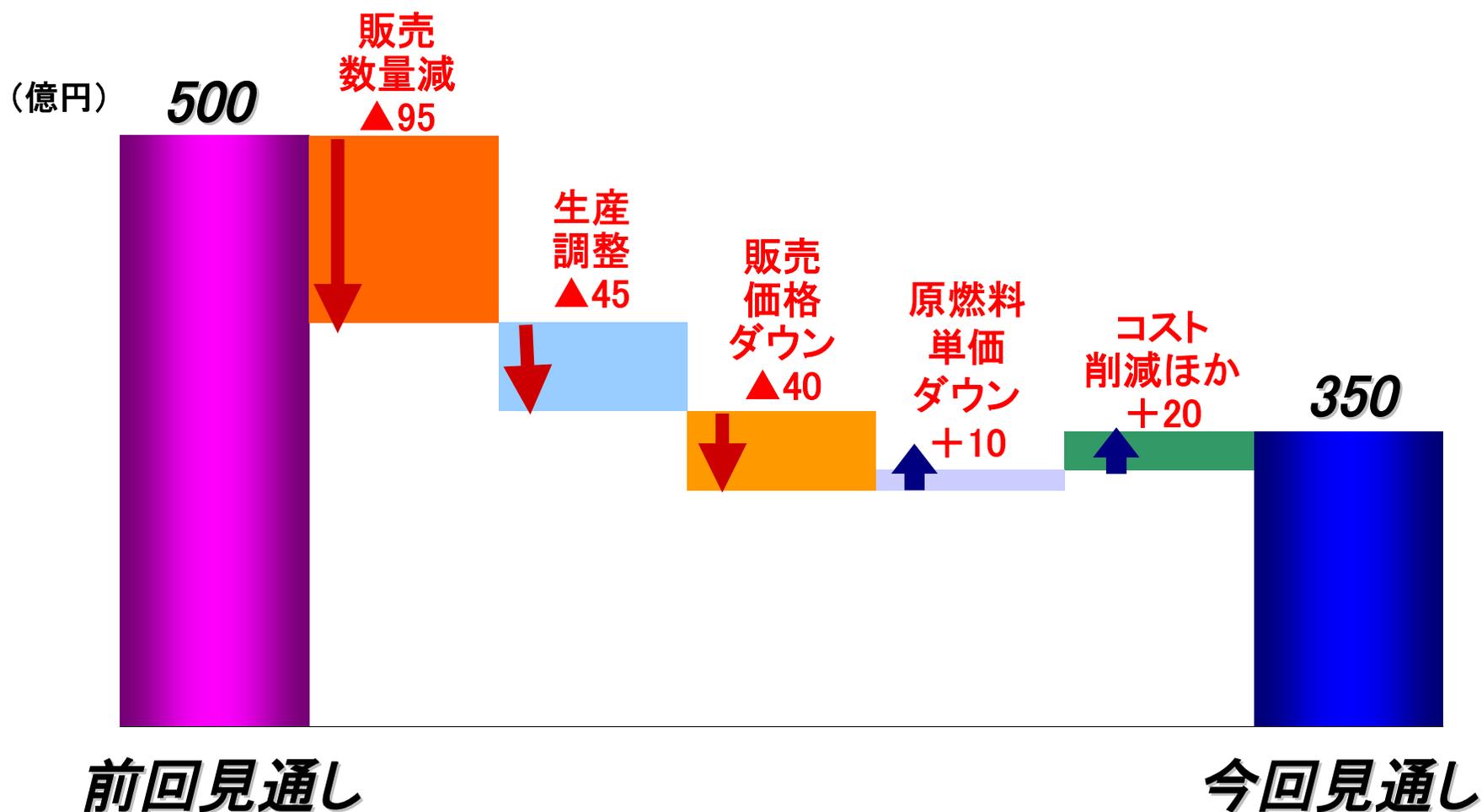
(4) セグメント別 売上高・営業利益推移

(億円)		前回見通し*					今回見通し				
		上期	下期	計	決算期 統一	年間	上期	下期	計	決算期 統一	年間
売上高	高機能繊維	544	556	1,100	200	1,300	544	506	1,050	150	1,200
	ポリエステル繊維	539	561	1,100	100	1,200	539	511	1,050	50	1,100
	化成品	930	970	1,900	350	2,250	930	870	1,800	300	2,100
	医薬医療	680	770	1,450	50	1,500	680	720	1,400	50	1,450
	流通・リテイル	1,054	1,146	2,200	50	2,250	1,054	1,146	2,200	50	2,250
	計	3,747	4,003	7,750	750	8,500	3,747	3,753	7,500	600	8,100
	その他	189	211	400	0	400	189	211	400	0	400
合計	3,936	4,214	8,150	750	8,900	3,936	3,964	7,900	600	8,500	
営業利益	高機能繊維	42	38	80	35	115	42	18	60	10	70
	ポリエステル繊維	20	15	35	0	35	20	0	20	0	20
	化成品	57	48	105	20	125	57	-7	50	0	50
	医薬医療	119	161	280	0	280	119	151	270	0	270
	流通・リテイル	24	26	50	0	50	24	26	50	0	50
	計	262	288	550	55	605	262	188	450	10	460
	その他	11	20	30	0	30	11	19	30	0	30
消去又は全社	-67	-69	-135	0	-135	-67	-73	-140	0	-140	
合計	207	238	445	55	500	207	133	340	10	350	

* 前回見通しは2011年11月1日に公表

(5) 前回見通しとの差異

- ・化成品は、デジタル家電・OA機器の市場低迷長期化により、販売減少見込み
- ・高機能繊維も一部用途で在庫調整、医薬の新薬拡大も発現遅れ
- ・需要の急速な減退に対応して、在庫を圧縮すべく生産調整を実施

営業利益増減 内訳

(6) セグメント別 四半期売上高・営業利益推移

(億円)		11年度見通し						
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	決算期統一 影響	年間
売上高	高機能繊維	269	275	257	250	1,050	150	1,200
	ポリエステル繊維	238	302	266	245	1,050	50	1,100
	化成品	469	461	463	407	1,800	300	2,100
	医薬医療	349	331	361	359	1,400	50	1,450
	流通・リテイル	482	572	585	562	2,200	50	2,250
	計	1,806	1,941	1,931	1,822	7,500	600	8,100
	その他	90	99	88	123	400	0	400
	合計	1,896	2,040	2,019	1,945	7,900	600	8,500
営業利益	高機能繊維	20	22	12	6	60	10	70
	ポリエステル繊維	5	15	0	-0	20	0	20
	化成品	32	26	17	-25	50	0	50
	医薬医療	72	47	76	75	270	0	270
	流通・リテイル	10	13	20	7	50	0	50
	計	139	123	125	63	450	10	460
	その他	3	8	4	15	30	0	30
	消去又は全社	-32	-35	-31	-42	-140	0	-140
	合計	110	96	97	36	340	10	350

(7) 2012年度に向けて

欧州財政問題の影響は不透明ながら、日本の復興需要、米国の雇用環境改善、中国・インド等の高成長率維持により、世界経済は緩やかに回復へ

事業	環境見通し	帝人Gアクション
アラミド繊維	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車、防弾用途の需要堅調 ・一部用途での在庫調整収束 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア市場(インド・中国)での積極展開 ・海底油田向けなど新規用途の拡販
炭素繊維	<ul style="list-style-type: none"> ・航空機メーカーのビルトレート上昇 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジアでの圧力容器用途等の拡販
ポリエステル繊維	<ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアで衛材等の高機能素材の需要急拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイ子会社の洪水からの早期復旧
化成品	<ul style="list-style-type: none"> ・エレクトロニクス関連市場の在庫調整収束 	<ul style="list-style-type: none"> ・需要減退に対応した生産調整アクションの終了 ・タッチパネル向け透明導電性フィルムや特殊PC(レンズ用等)の拡販
医薬医療	<ul style="list-style-type: none"> ・薬価改定 ・フェブリクの長期処方解禁 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェブリク拡販・北米向け原薬出荷 ・ボナロン[®]剤型追加(注射剤、ゼリー剤) ・CPAP拡販(ラボ増設等)

上記に加えて継続的なコストダウンに取り組み、新中期計画のスタート年度として業績回復を目指す

(8) 主要経営指標

	07年度 実績	08年度 実績	09年度 実績	10年度 実績	11年度 見通し
ROA：営業利益／総資産	6.5%	1.9%	1.6%	6.1%	5%
ROE：当期利益／自己資本 *1	3.3%	-12.3%	-12.4%	9.1%	4%
売上高営業利益率	6.3%	1.9%	1.8%	6.0%	4.1%
D/Eレシオ *2	0.83	1.18	1.18	0.94	0.9
自己資本比率	38.5%	35.0%	33.0%	37.3%	39%
1株当たり当期純利益(円)	13.2	-43.7	-36.3	25.6	12.2
1株当たり配当金(円)	8.0	5.0	2.0	5.0	6.0
総資産(億円)	10,160	8,742	8,231	7,615	7,400
有利子負債(億円)	3,252	3,613	3,203	2,674	2,600
EBITDA(億円) *3	1,278	853	753	1,050	900
FCF(億円)	-255	-759	470	494	200

*1 「当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「有利子負債÷自己資本」にて算出

*3 「営業利益+減価償却費」にて算出

見通しに関する注意事項と事業等のリスク

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

① 競合・市況変動にかかもの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動により事業業績が大きく左右されることがあります。

② 製品の品質にかかもの

医薬医療事業においては、生命関連商品を取り扱っているため、製品の欠陥により、業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

③ 医薬品の研究開発にかかもの

医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

④ 海外活動にかかもの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

⑤ 事故・災害にかかもの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は、帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

本資料は、2012年2月3日午前11時30分に公表した弊社決算発表に基づくものです。
本資料に記載された製品名等は登録商標です。

◆ 連結貸借対照表

(億円)	10年 3月末	10年 6月末	10年 9月末	10年 12月末	11年 3月末	11年 6月末	11年 9月末	11年 12月末
資産 合計	8,231	8,055	7,767	7,919	7,615	7,820	7,845	7,758
流動資産	3,327	3,315	3,264	3,450	3,369	3,583	3,694	3,756
固定資産	4,903	4,741	4,503	4,469	4,246	4,238	4,151	4,002
負債・純資産 合計	8,231	8,055	7,767	7,919	7,615	7,820	7,845	7,758
負債	5,278	5,098	4,825	4,863	4,538	4,683	4,742	4,697
(内 有利子負債)	3,203	3,299	3,059	2,932	2,674	2,846	2,880	2,850
純資産	2,953	2,957	2,943	3,056	3,077	3,138	3,103	3,060

* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ 連結損益計算書

(億円)	10年度				11年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	1,926	2,073	2,063	2,095	1,896	2,040	2,019
売上原価	1,406	1,495	1,454	1,508	1,339	1,479	1,478
売上総利益	520	578	608	587	557	561	541
販管費	440	454	449	466	447	465	444
営業利益	81	124	159	122	110	96	97
営業外損益	-3	3	10	8	18	-8	2
(内 金融収支)	-6	-9	-7	-9	-4	-9	-7
(内 持分法投資損益)	9	17	22	15	26	13	8
経常利益	78	127	169	129	128	89	99
特別損益	-11	-2	-5	-40	-1	-19	-18
税前利益	67	125	164	89	127	70	81
法人税等	24	45	65	28	59	35	22
少数株主損益	2	5	15	9	5	6	-0
当期純利益	40	75	85	52	63	29	59

* 詳細については決算短信をご覧ください

◆営業外損益

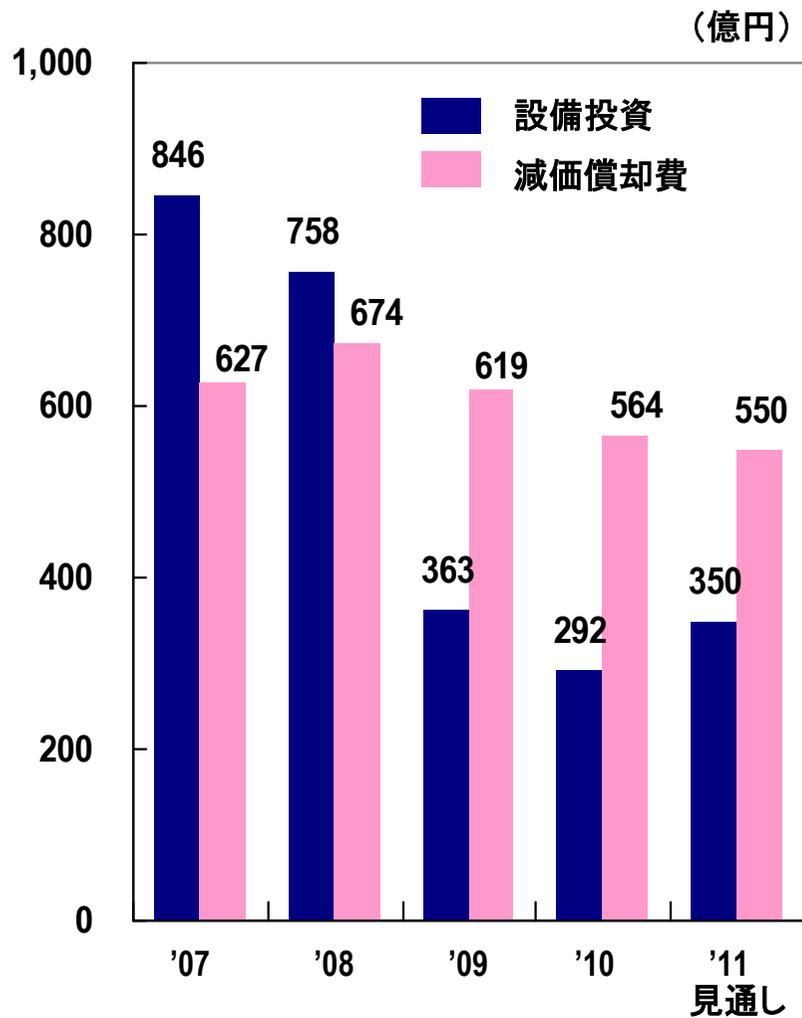
(億円)	10年度 3Q累計	11年度 3Q累計
受取利息	4	4
受取配当金	8	7
持分法による投資利益	48	47
雑収入	7	9
営業外収益 計	67	66
支払利息	33	32
為替差損	8	5
雑損失	15	18
営業外費用 計	57	55
営業外損益 計	10	12

◆特別損益

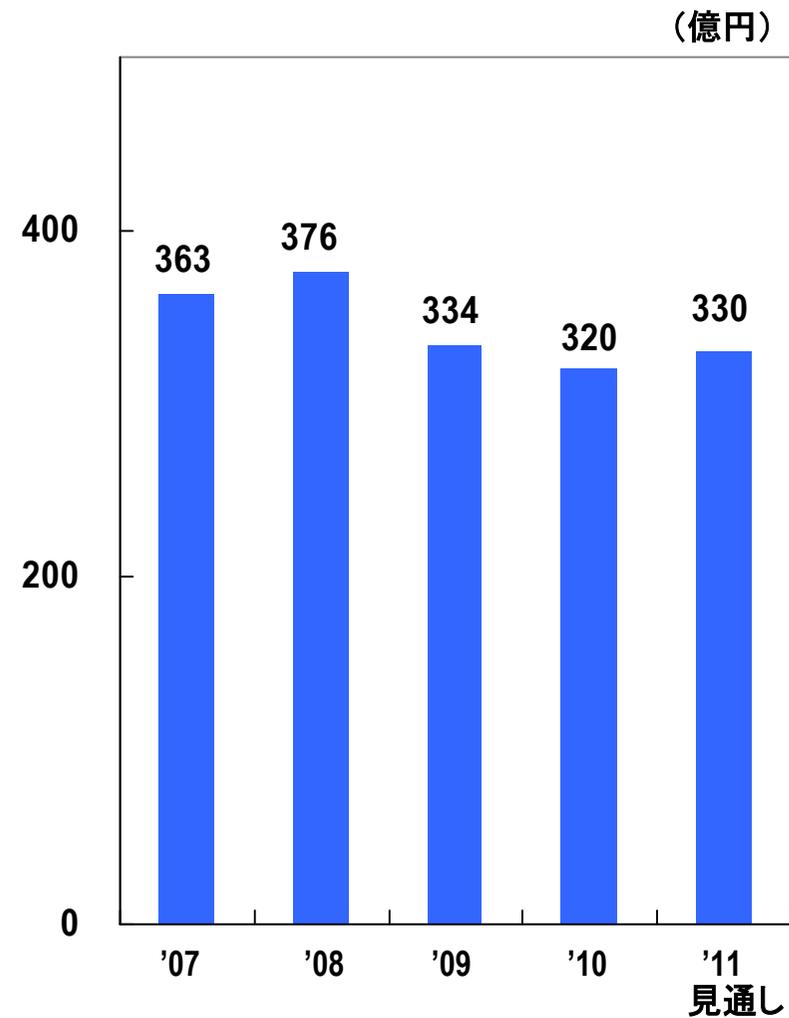
(億円)	10年度 3Q累計	11年度 3Q累計
投資有価証券売却益	12	1
関係会社株式売却益	-	7
その他	6	5
特別利益 計	18	13
固定資産除売却損	3	3
投資有価証券評価損	1	20
減損損失	3	12
事業構造改善費用	11	-
貸倒引当金繰入額	-	4
震災関連費用	-	3
資産除去債務会計基準 の適用に伴う影響額	5	-
その他	13	8
特別損失 計	36	50
特別損益 計	-18	-37

◆設備投資・減価償却費・研究開発費推移

設備投資・減価償却費



研究開発費

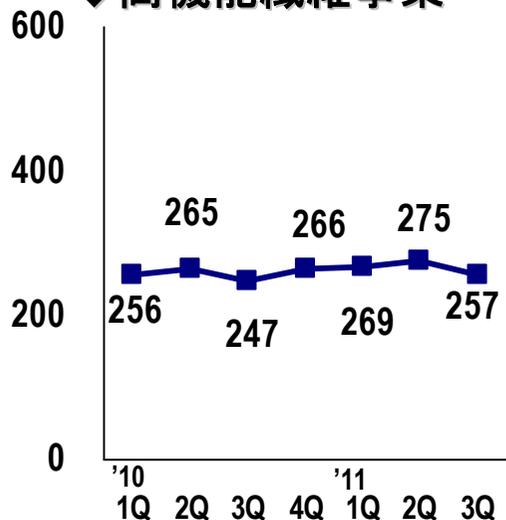


◆セグメント別 四半期売上高・営業利益推移

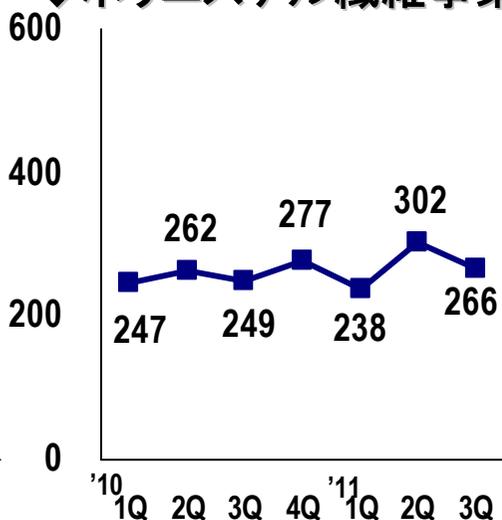
売上高

(億円)

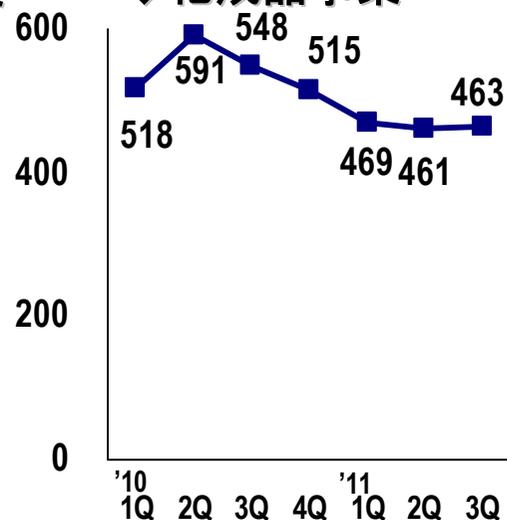
◆高機能繊維事業



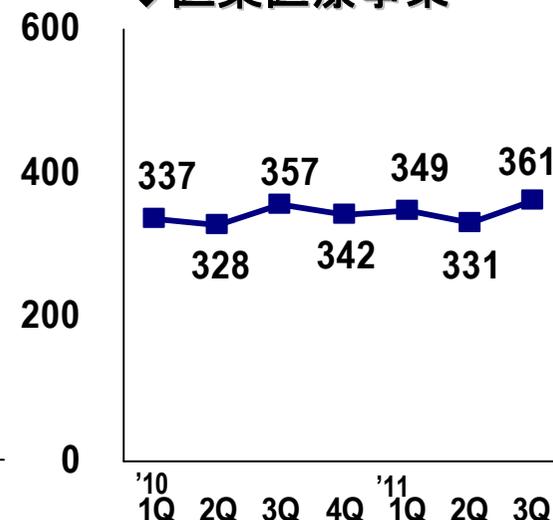
◆ポリエステル繊維事業



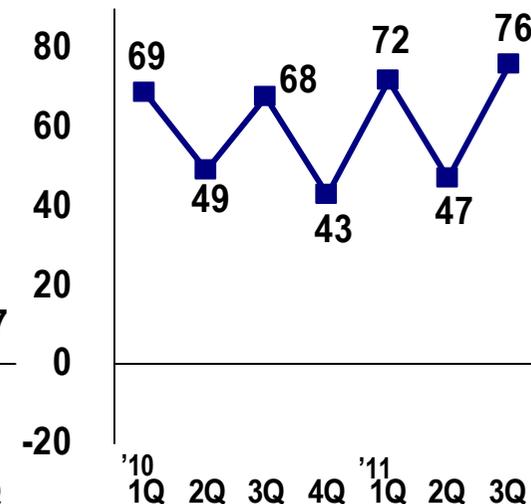
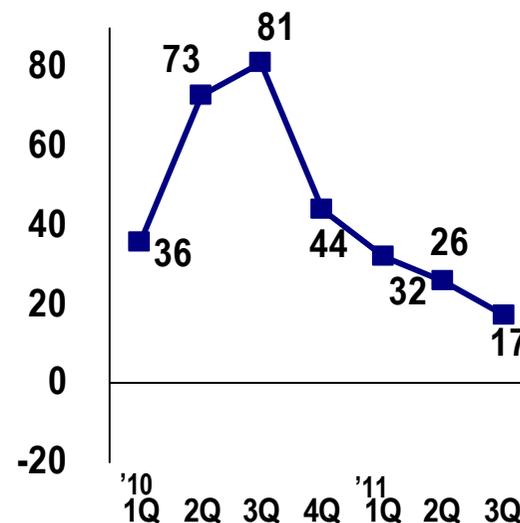
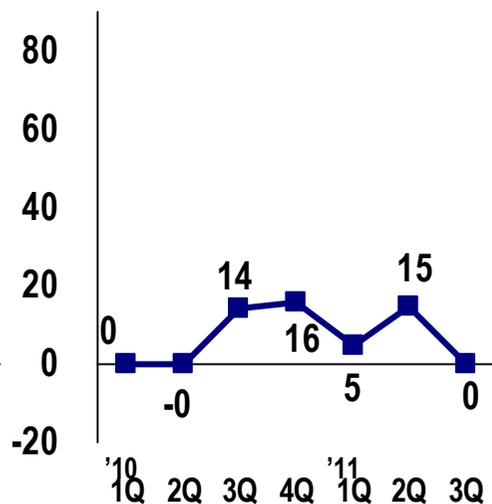
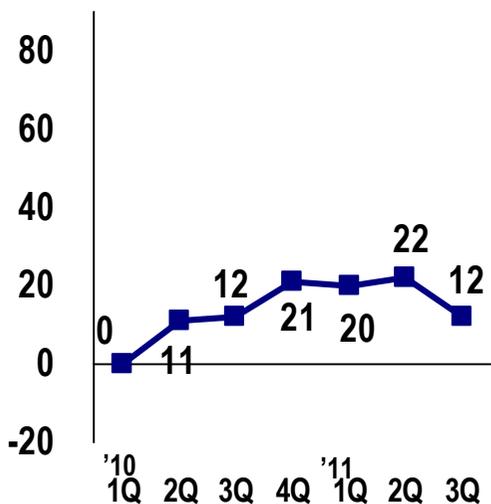
◆化成品事業



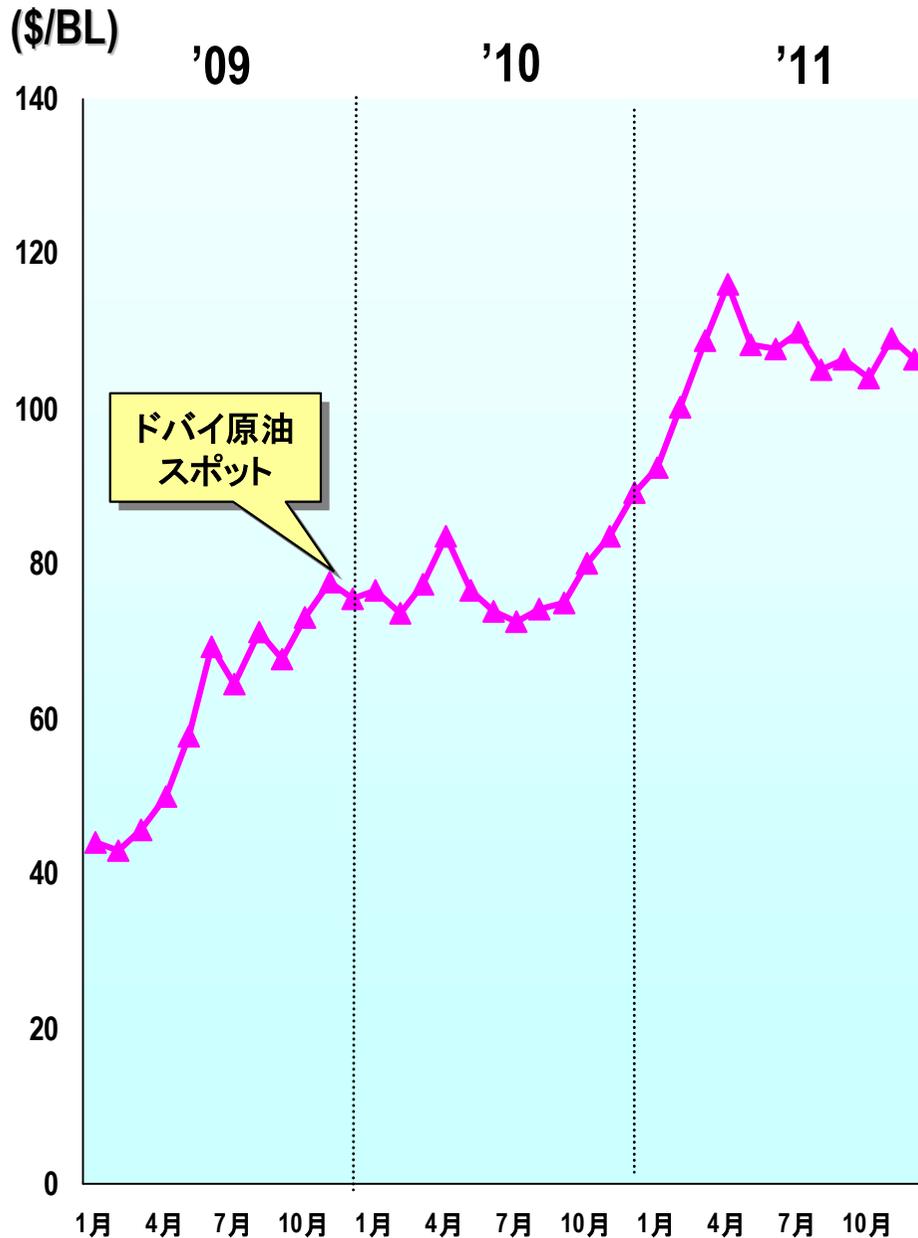
◆医薬医療事業



営業利益

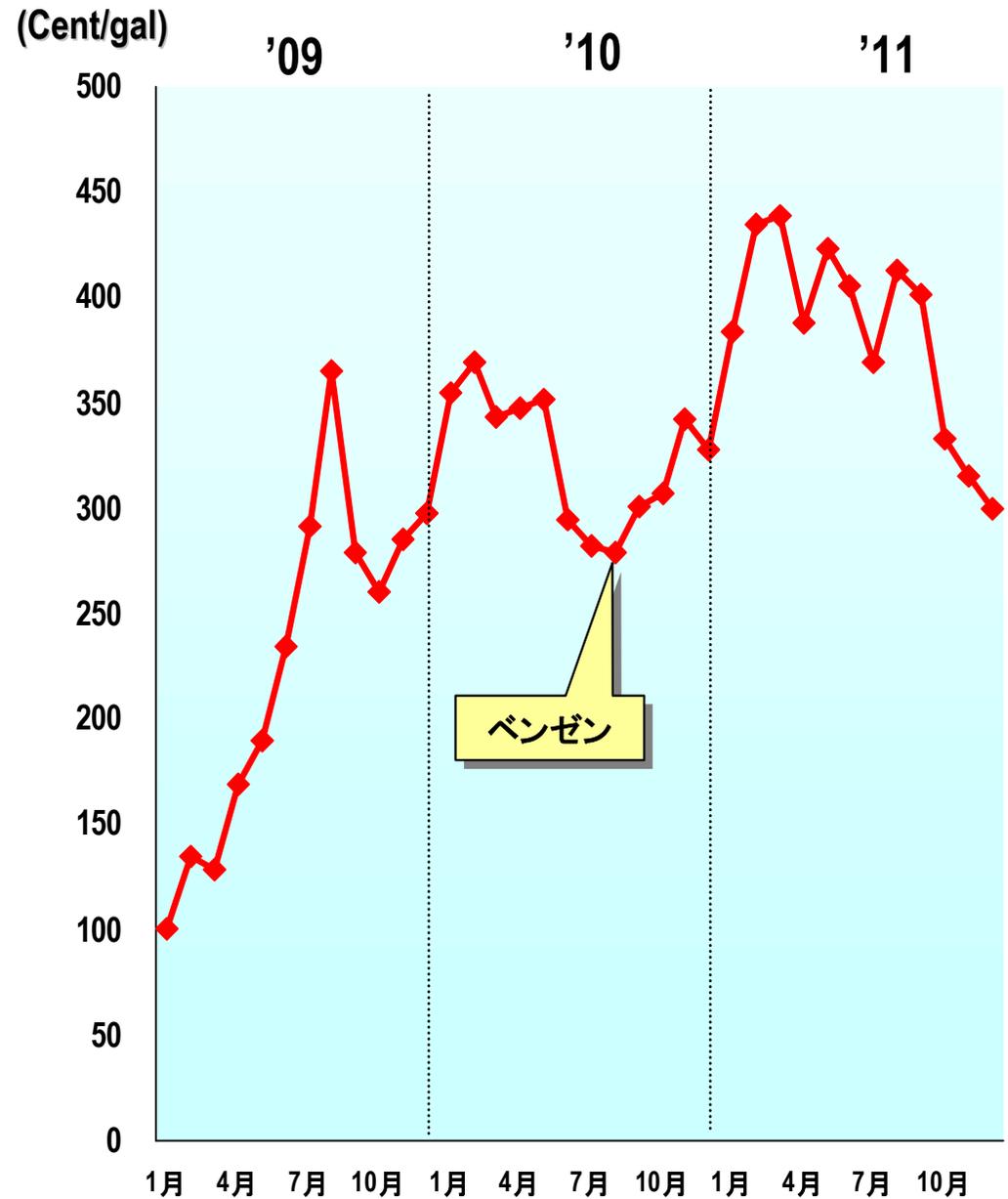


◆ドバイ原油価格推移



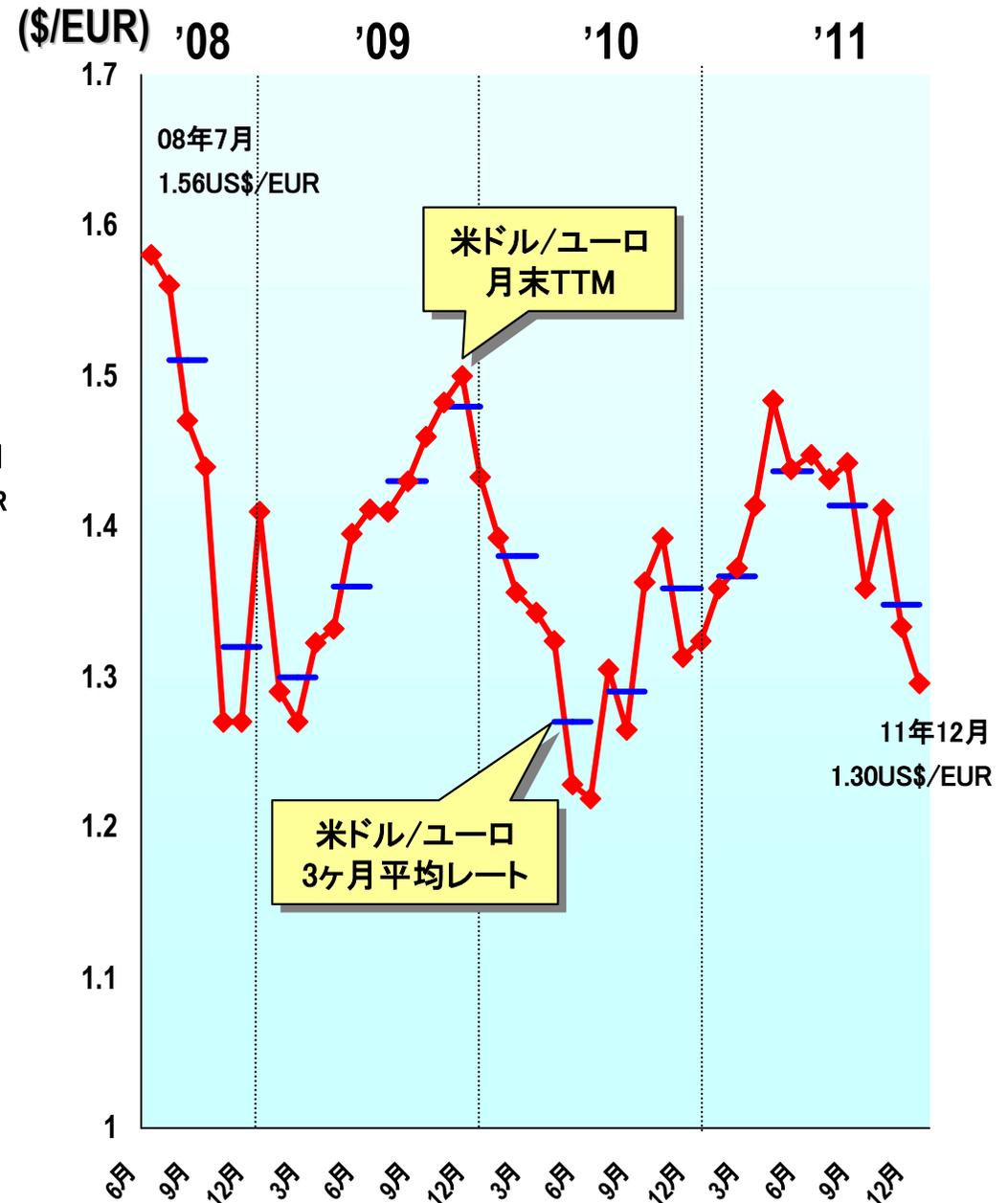
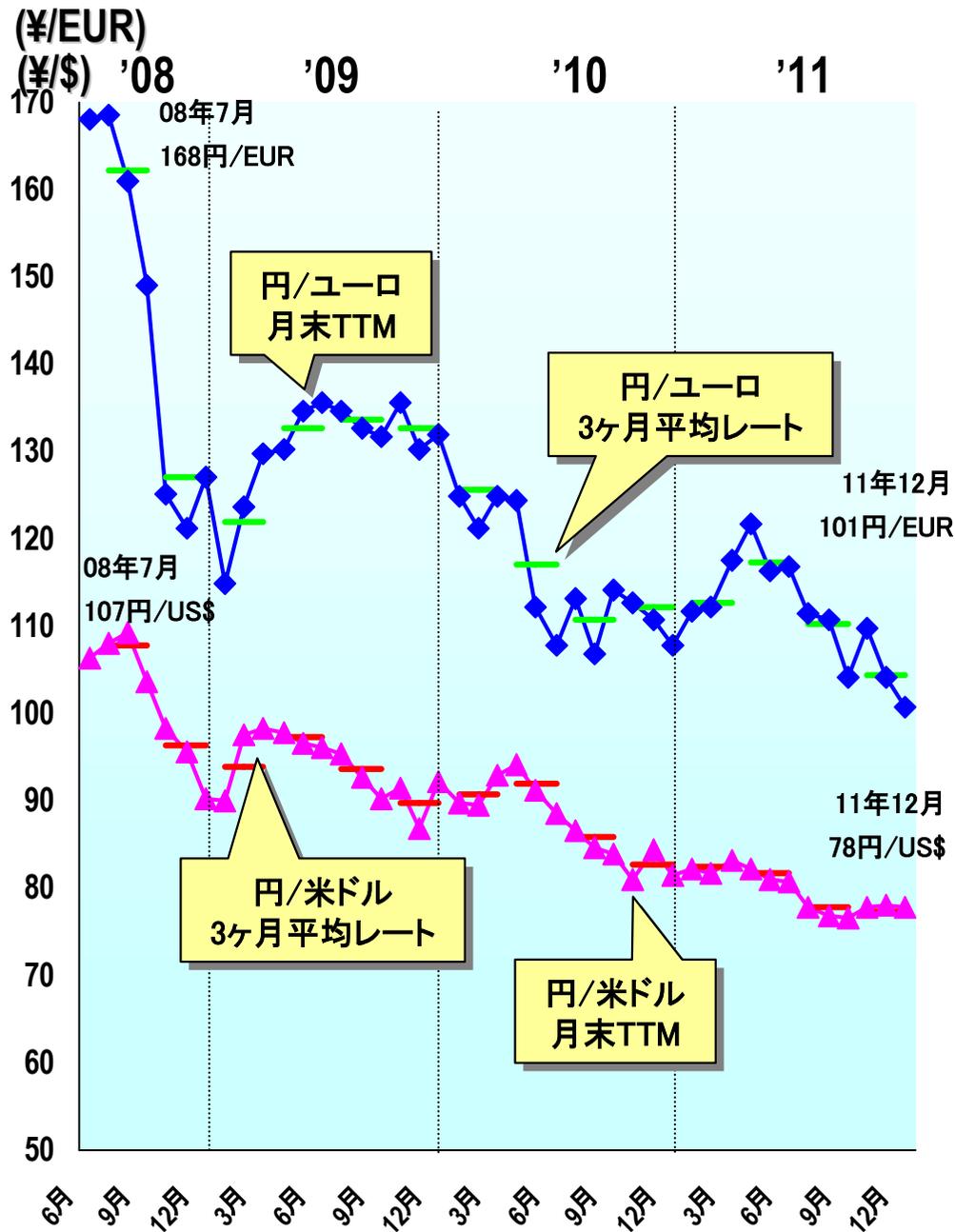
【出所:Platt's社のDATAを基に弊社推定】

◆ベンゼン価格推移

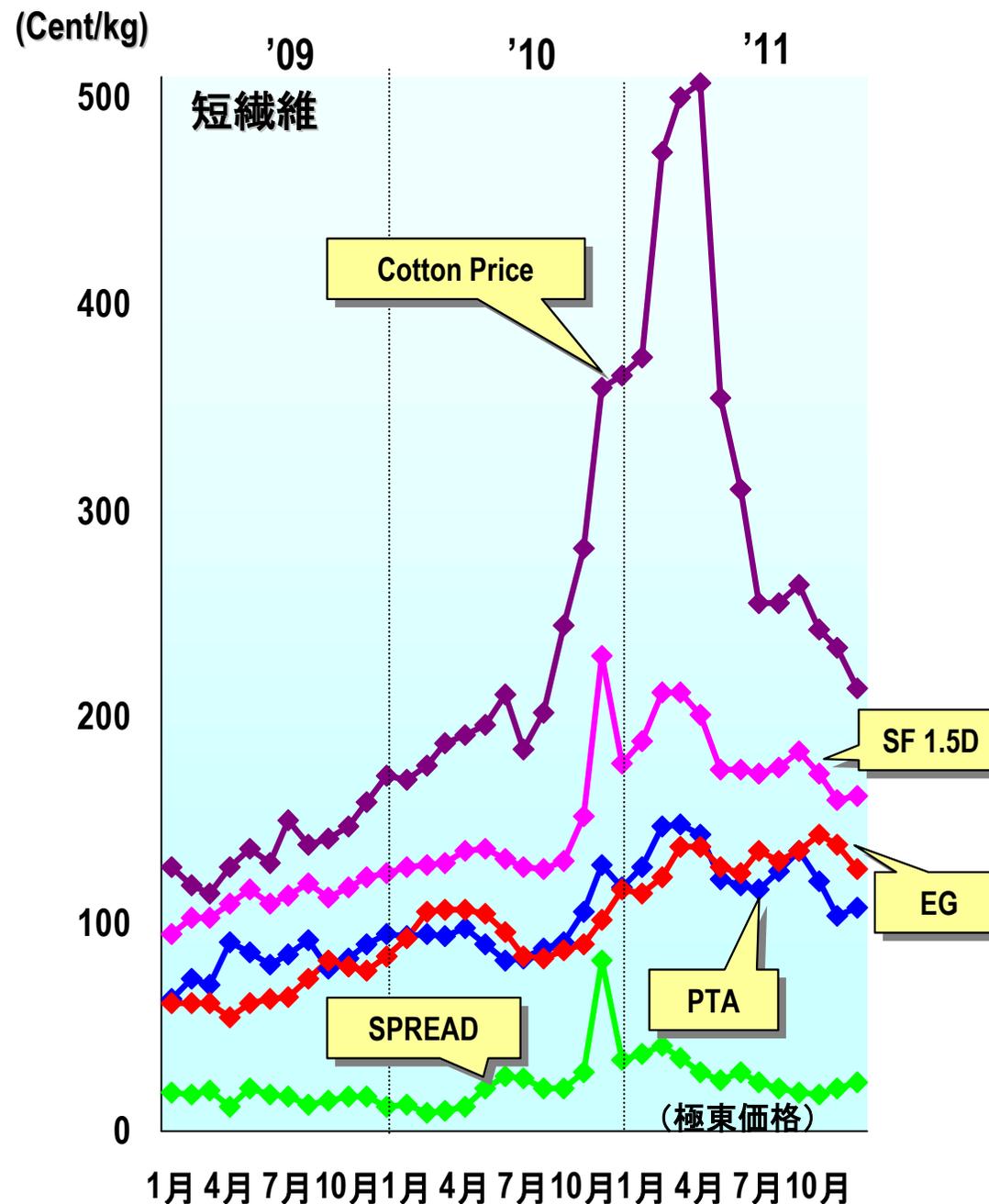
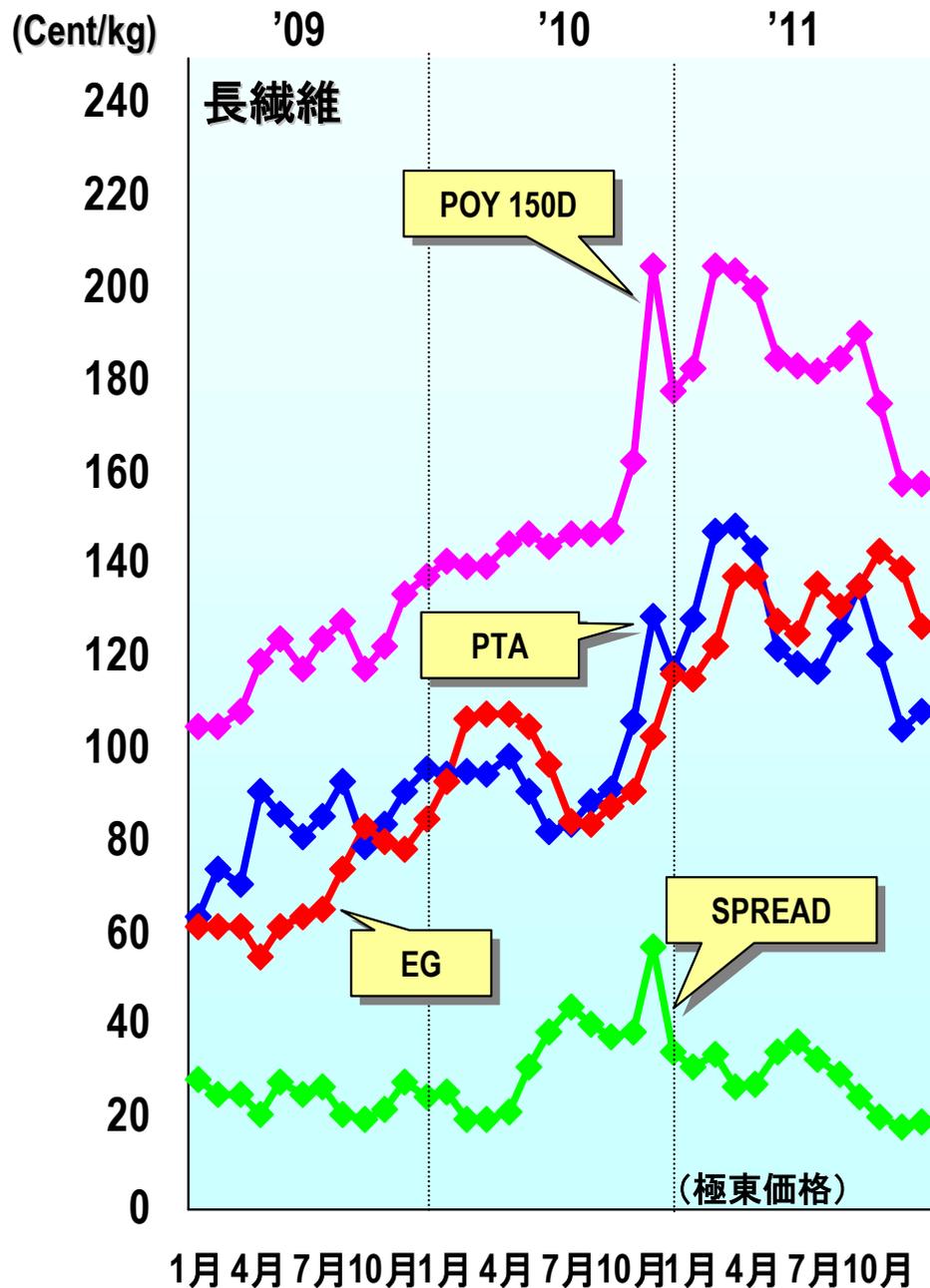


【出所:BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

◆円 / 米ドル、円/ユーロ為替レート推移



◆ポリエステル繊維売値・原料価格推移



【出所:PCIのDATAを基に弊社推定】

◆主要医薬品売上高実績推移

(億円)

品名	適応症	10年度					11年度		
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q
ボナロン [®] *	骨粗鬆症治療剤	52	52	58	48	210	52	52	54
ワンアルファ	骨粗鬆症治療剤	29	28	31	26	114	27	27	30
骨粗鬆症治療剤計		81	80	89	73	324	79	79	84
ムコソルバン	去痰剤	25	21	29	24	100	24	21	30
ベニロン	重症感染症治療剤	24	23	24	20	91	23	22	26
ラキソベロン	緩下剤	11	11	12	10	44	10	10	11
トライコア	高脂血症治療剤	4	4	4	5	18	3	4	6
ボンアルファ	角化症治療剤	4	4	5	3	16	3	3	4
オルベスコ	喘息治療剤	3	3	4	3	12	3	3	3
スピロペント	気管支拡張剤	3	2	3	2	10	2	2	3
サイビスクディスポ	変形性膝関節症の疼痛緩和剤	-	-	2	5	7	4	4	5
フェブリク	高尿酸血症治療剤	-	-	-	-	-	5	0	1

*ボナロン[®]/Bonalon[®] はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

◆疾患分野別臨床開発段階 (2011年12月末現在)

*承認/新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認/ 新規上市
骨・関節 領域	ITM-058			GTH-42V ^{*1} GTH-42J ^{*2} [ボナロン®]	
呼吸器 領域	NA872ET ^{*3} [ムコソルバン]				BTR-15K [オルベスコ] (適応追加:小児)
代謝・ 循環器領域		ITM-077 NTC-801		ITM-014 ^{*4}	TMX-67 [フェブリク]
その他		GGs ^{*5} [ベニロン] (適応追加: 顕微鏡的多発血 管炎)	GGs [ベニロン] (適応追加: 多発性硬化症)	TV-02H [ボンアルファ ハイ軟膏] (中国)	

*1 GTH-42Vは2011年2月に承認申請、2012年1月に製造販売承認を取得、*2 GTH-42Jは2011年8月に承認申請、

*3 NA872ETは2011年9月にPhase I 開始、*4 ITM-014は2011年9月に承認申請、

*5 GGS(ベニロン)は2011年7月に顕微鏡的多発血管炎への適応拡大の臨床開発に着手

◆新規上市医薬品 (2011年12月末現在)

販売名(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
フェブリク (フェブキソスタット)	高尿酸血症	プリン骨格を持たない新しい尿酸生成抑制剤。1日1回服薬で血清尿酸値を治療目標値まで低下させ、維持することが可能。 軽度・中等度の腎機能低下がある場合にも用量調節の必要がなく、多くの患者に使用できると期待される。	錠剤	自社品、2011年5月17日に国内販売開始
オルベスコ 小児用 (シクレソニド)	気管支喘息	既に発売している喘息治療用吸入ステロイド剤(オルベスコ)の小児適用。 小児気管支喘息に対して国内で初めての1日1回の用法。既存の吸入ステロイド剤と同等以上の効力を有し、全身性及び局所性副作用の低減が期待できる。	吸入	導入元:スイス ニコメッド社 2011年4月7日に国内販売開始

◆新規開発医薬品 (2011年12月末現在)

【申請】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TV-02H (タカルシトール水和物)	尋常性乾癬	国内販売しているボンアルファハイ軟膏 20 μ g/gを中国に導出。既に中国で上市・販売している低濃度製剤(2 μ g/g)に加えることで、当該適応症における治療選択肢の幅を広げることができる。	軟膏	2010年9月低濃度製剤に対する補充申請(中国)
GTH-42V (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬 アレンドロネート製剤(ボナロン)の注射剤。 経口剤を服用できない患者等への処方が可能となり、服薬コンプライアンスの改善や経口剤に比べて上部消化管障害の低減が期待される。	注射	導入:米メルク社 2011年2月承認申請
GTH-42J (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬 アレンドロネート製剤(ボナロン)のゼリー剤。 骨粗鬆症領域の治療薬として世界初のゼリー製剤を目指す。 良好な食道通過性と型崩れしない適度な硬さを有し、錠剤を好まない骨粗鬆症患者に選択肢を提供できるほか、高齢者に取扱いやすいことが期待される。	ゼリー	導入:米メルク社
ITM-014 (ランレオチド酢酸塩)	先端巨大症	先端巨大症における過剰な成長ホルモンの分泌を抑制する薬剤。 徐放性と持続的な薬効発現を可能とする製剤処方とプレフィルドシリンジの採用によって、現行の治療薬と比べて利便性とコンプライアンスの向上が期待される。	注射	導入:仏イプセン社

【Phase III】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGG (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	多発性硬化症	本剤の免疫調節作用で多発性硬化症に伴う神経症状の再発頻度を減少させて患者の長期予後を改善する。 副作用・コンプライアンスの面で既存薬の継続投与が困難な患者の第1選択薬となり得ると期待される。	注射	共同開発: 化血研 (適応追加)

【Phase II】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-077 (Taspoglutide)	2型糖尿病	血中グルコース濃度に依存したインスリン分泌促進作用による血糖コントロール薬。低血糖リスクが少なく、体重減少作用を有する。 週1回投与が可能であり、利便性に富む。そのほか、インスリンを分泌する膵臓ベータ細胞の保護および再生作用が期待される。	注射	導入: 仏イプセン社
NTC-801	心房細動・粗動	心房選択的な心房細動・粗動の治療並びに予防薬。 既存薬の問題点である心室性副作用(不整脈誘発作用、心機能抑制作用)が無いことが期待される。	錠剤	共同開発: 日産化学工業
GGG (乾燥スルホ化免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発: 化血研 (適応追加)

【Phase I】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。 既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と高い安全性(高カルシウム血症のリスク低減)が期待できる。	注射	導入: 仏イプセン社
NA872ET	去痰	既に販売している去痰剤アンブロキシソール塩酸塩(ムコソルバン)の小型徐放錠。 ムコソルバンLカプセルより小さいため、服薬しやすく、分包性に優れることが期待される。	錠剤	導入: 独ベーリンガー ・インゲルハイム社

TEIJIN*Human Chemistry, Human Solutions****Human Chemistry, Human Solutions***

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。